

川内沢ダム建設事業の検証に係る検討に関する学識者(増田川圏域河川整備懇談会)への意見聴取の結果と宮城県の考え方について

意見聴取日	学識者	結果	県の対応方針
平成24年8月14日	特定非営利活動法人 水・環境ネット 東北 高橋 万里子専務理事	<ul style="list-style-type: none"> 概略評価及び総合評価により、ダム案を選定したことは妥当と考えられる。なお、ダム建設に際しては環境（生物多様性）に十分配慮すること。 極力、地域住民との合意形成を図ること。 	治水、利水対策の効果を早急に発現させることが重要であり、環境に十分配慮した上で、ダム事業を計画的に実施できるよう今後も努めていく。また、主要な段階で関係住民の方々に説明を行う。
平成24年8月17日	日本ビオトープ管理士会 大山 弘子理事	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省からの検証要請を受け、検証に係る検討を適正に実施していることを確認した。 概略評価及び総合評価により、ダム案を選定したことは妥当と考えられ、震災を踏まえ早急な整備が必要である。 遊水地を新たに建設する際は、遊水地内に「水に強い植物を植え」、環境に配慮する事例がある。治水対策を行う際は、環境に十分配慮すべきである。 	治水、利水対策の効果を早急に発現させることが重要であり、環境に十分配慮した上で、ダム事業を計画的に実施できるよう今後も努めていく。
平成24年8月22日	尚綱学院大学 阿留多伎 真人生活環境学科長	<ul style="list-style-type: none"> 概略評価及び総合評価においては、恣意的な偏りもみられず、ダム案を選定したことは妥当と考えられる。 都市計画の観点からも、下流市街地を守る治水対策を山間部で確実にを行うことは適切と考えられる。 川内沢川中下流域は既に市街化が進んでおり、今後も加速的に進捗することが予想されるので、「遊水地案の中下流配置」については、関係住民の理解を得ることが難しいと予想され、「土地所有者の意向が不明確なこと等を考慮し、総合評価においてダム案より劣る」との評価は適切と考えられる。また、下流域の放水路計画との関連からも、概略評価及び総合評価により、ダム案を選定したことは妥当と考えられる。 	川内沢川の下流域は都市化が進んでおり、また、仙台空港や国道4号などの重要な資産も位置しているため、早急な治水安全度の向上が必要であることから、ダム事業を計画的に実施できるよう今後も努めていく。
平成24年8月22日	宮城大学 食産業学部 加藤 徹理事兼食産業学部教授	<ul style="list-style-type: none"> 下流域の放水路計画との関連からも、概略評価及び総合評価により、ダム案を選定したことは妥当と考えられる。 地球温暖化などの事象を踏まえると、水を貯留する施設の重要性は、今後、更に高まることが予想されるので、その観点からもダム案を最良とした判断は妥当と考えられる。 震災後の地盤沈下を考慮すると、「中下流配置の遊水地案」では内水排除が難しく、別途その対策も必要となるのではないかと。 	治水、利水対策の効果を早急に発現させることが重要であり、また、近年の川内沢川の流況を踏まえ、流水の正常な機能を維持することが必要であることから、ダム事業を計画的に実施できるよう今後も努めていく。